吐屑菴句集

全

[illegible]

山坂を越て幾[illegible]いくつ[illegible]

東京[illegible]立　江戸[illegible]

何[illegible]成

[illegible]

戦[illegible]自相迎

山坂の[illegible]

山又[illegible]泉

序文

[illegible]のたいらの[illegible]歌隆[illegible]世をもてあそぶ[illegible]ふ
[illegible]江[illegible]のうぐめ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

仰てあれいにまこれ老法師のほとゝぎす
こゑぢく紀貫之をてもていのでいさゝ川のいざゝ
ゝぐしいやさむしあゝ孫ゑ最上河のいなし
やをぶさびさびき一こゑぶりに面白のなく事
きゝ勢と伊勢のうゝ丸きびかさなるを伝と
のふきゝへやさむ毎ゝのあゝもをほさなゝ
業よきゝてまゝゝて

ひのえ申れとゝ巣さゝ月

寿武

いゝゝ拙を躍し更神の
月乃信ゝを発ゝ氏恵成よ
産育ゝ妙窪唐のほゝり毎乃今に
ゝをあゝの春秋を
玉ゝ折よゝれゝふ巻て卜結句
積りてかのつゝ一帖となれるゝゝて
九り号ゝをゝに草乃発ゝ世ゝ於
吟ゝふ妙先を巻て人をさゝ於の
赤ゝゝもあゝし又ゝ詩よゝ世間
ゝもほゝ欣みつゝ罷を尚て恵
貴ふ仏ゝ新ゝのをゝさハあれ先哲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

丙申長月

沾峩

吐屑菴句集

春之部

詞書畧

君の代を土産にみたす日出もめ

聖代や駕ゝ夜つむ朝日丁寧

歳立や其侍ゝ神の場乃すゝ

山松の尾上や彩の家門のさま

前書畧

都多〻見むと思ひ今朝乃春

若水乃鏡ハ老きたしめ可南

題繪

連や志賀を志ゐ乃春の雪
志咲ハ國柄人告ら御代志ら

前書畧

大判高能夢買人志春乃町

佳木子改名

杉乃名を引添乃ら咲子志日

鶯

うぐひす志ゆや春屋乃譜る鳥屋ら梁
鶯や志ゆるゝも世乃古屋鋪
宇久禾流志ゆ海を西辺と巨健ら
鶯や春屋乃春乃夏那乃良
眼を春乃ゝく志ゆ志ゆ雪間哉

鶯

梅の香ゆ鼻のうさ志ゆ春乃梦
水や空志ゆ毒のたやゝのう志ゆ自伝
自志ゆ去年ゆいん梅志ゆ

十日市川喜の助や玉兎乃義
毒の香て古く酒乃燗
少もしるも旬なるの利や梅の花
玉女の毒も自ても届く鳥のさま
梅の香ぬ風てうてうも朝寒し

雪の松言ハ祐朱小
愛ある紫紅はなて
松のつみあ梶原
憎まとくて

梶原て白い顔赤ー梅乃花

書好行の句ぬ求るを味てかるるる
て猪て塗るこの句利玉めの毒

若菜

毋て越毒菜はみもてすみ川
野原毒も侍利ら若菜津義

宙引

取宗の朧乃はるさま胴明く利

猫乃戀

三日自玉日ちとふ志ち也猫乃恋

[illegible]

柳舟中二句

燕乃やこの[illegible]河や京哉

定家卿七種題
烟の十文字を詠る

青柳や舟乃寺玉[illegible]十文字

春雨 正月廿一日乃吟

春雨の[illegible]八火鉢哉

椿

花鳥乃身找逆乃椿可南

春椿[illegible]

朧月 高輪舟中[illegible]

遠浅乃浪乃眠乃於保乃自

初午 菴寄[illegible]

[illegible]

初午や[illegible]酒[illegible]寺乃[illegible]

はつ[illegible]見[illegible]の[illegible]茶屋

初午や[illegible]乃江都

歸雁

友雁ゆくこゑの遠さよ　天津雁

苗代や田毎に老の杖吉先　苗代

雷鳴のかすかに聞えしめ可南　初雷

年号を書く添ふ歟接ふ南　接穂

雲雀

里ハ暮峯ハ雲雀乃士婢雁の南

原市や為際見くこゑ啼雲雀

宇宙ゑ雲雀ハみえず啼音哉

蛙

於ゑ号しや凍ハ見えず啼蛙

蝶

さ前乃世ハ毛虫形のゑ胡蝶哉

雉子

妻ハあさて夫ハ吉の影雉子可南

寫八雲井妹八官女ら雛乃さ濱

雛

雛に余所ゝ晏一書男の南

赤鳥乃使をあ梨や飛那赤寫

下戸那ゝ母も又飲まも

ゝゝ那と與一面

紫平ゝ飲まをあ書雛乃酒

雛合

爭戸誰ゝ先立人赤ゝ呂

汐干

江乃嶌や沖ゝ坐頭赤汐干狩

汐干狩硯ゝ似書那貝をこの那

須广浦や人技千鳥の遠汐干

大濱何某さきの年身まの事る

妻子の此西

三周乃旧懐技悼ら

跡訪ん塚を毎子赤草乃貝

海棠

海棠乃眠盗赤山毒赤畫

宴を記念するの暮色たゞ梅

雲の浪遠山き久良咲かゝ

花くもれ利誅り那無や侍さゝ

上野五重

あ梨この多紀の森の浄土や御廟守

人音や大乃咎部山佐久良

松杉ハ自長ゆ来る夕きゝ

以巾まゝく契ある真紋の花見哉

駒繋く桜を山乃禁の南

兒孫を連大衆の中孔雀見哉

鵬を毒ゝあゝまる山路の那

招農通ゆも廻き花玉一詠

松陰ゝ屋さる蓑や袖ハ帳

うの移鳥友呼春山花古ゝ路

餞千久婦

立かく毒姿ゝ華伐僧みゝ

山吹

山吹乃華盗まんと小舟可南
戸岸に小舟を繋る蛙

桃

猿曳乃田舍廻るや桃花花
埜屋鋪や茅の道桃林

土筆

華表なる松の木下に佇くし哉
土取居ぬみ荒し居る土筆の南
人丸忌營家みるも

仲丸帆の入日れしをや人丸忌

躑躅

なる眼の行変ぬ躑躅の乱
山さ九る茅の楽しを羊躑躅

藤

松の枝や命ぬの事し藤乃花
まれる天孫閣城拔るや姫も去月

燕乃門巣城の事侍る小

聖代戸燕も馴る古屋鋪

惜春

春の昭者鐘と角〳〵行暮て

夏之部

痩する身殊に目立也更衣

任正一位蒼稲魂法樂

華過て位ぞ増す神や山若葉

上野清水法樂

讀経乃声や若葉哀雲のく袖

若葉

残る日乃身まく照す若葉哉

神田菴を出て小籠に菜草と提て病床に訪ふ

夢之見也身哀に成ぬ初茄子

病中乃唫　二句　又回人の来るに

苍芥子常人に又逢命可那

御用心〳〵まく本登土吉壽

時鳥

起くすれ鳥乃果報や むらさき次

高き海をいのちハ郭公
人参り法師人命を保ち給須
寺路新樹下部屋子――蜀魂
雨降行薄暗き柔やかに樹
みゝの花や嵐を啼て杜宇
曉さまゝ雲間くほゝ樹
風雨烈夜

時鳥哥人盗人窃夜の南
郭公呼子鳥ハ春秋鳥と聲も

明星ハ已吐らん如空土春寿
頤廓

曉乃隣起まゝ保止登絶壽
あゝの花樹の桂樹ハ勢かゝ樹
高輪多
海原ハ雲小入やゝ如ゝます

安永五申歳四月日光御社参
御發駕供奉之嚴重驛路之繁
榮聖代之御功萬々歳

橘乃昔毛今毛君々ハ利

御社参裏

保土止絶寸戸さゝ照御代の自身番

牡丹

一株ゝ遅き日脚やタ牡丹

天工乃手ぬ直し寸ぎ牡丹哉

雨中之牡丹

稲ハ芙蓉の面保寸ん八ゑ男ゝの南

松魚

孫ゑ子ゑ法師ゑ寸ゑ初松魚

河豚ゝゝゑ殺し寸ゑ寸ゑ松魚

筍

筍乃盗ゝあゑ乎小家ゝの那

偶禪室ゝ入

大門ゝ漬く木立や雨ゝ子鳥

葭雀や本庄筋へ御用船

皐月雨

寸ゑ寸ゑ雨ゝ嘶ゝ横ゑゑ五月乃

端午

昆布く菖軒形きくゝ菖蒲艸

画讃

君この代ハかさゝく見する　甲可南

虎の雨

五月雨の長ゝ名ゝせん虎の羽

河竹乃誰を泣ゝ登良の雨

氷室

大和も江都ゝ生ゝゝ氷室ゝ

餞旅客

飯野辺乃清水や幾薬

松原ゝ一里ハ来ゝ埃の夢

唐崎ゝ松ゝ角ゝや埃吋乃

三伏

薬ゝ清ゝこのゝゝゝまいき

木下涼ゝ昼ゝ長く夜を自ゝ

日盛ゝさゝ百合乃盛哉

草の戸や薬中の中ゝ百合の花

或家あく活花百盃催ゝるゝ

水際の殊の目書の百合の姿

蝙蝠の是ぞ見せそる古扇

紅閨のあきといふる髪の
人のかゝ

風や賣ん園の扇の捨もすの

うゝ　俗養の志あるゝ此夏も
むかしくるゝ

腰ぬけ人をあさめ隻籠

探幽の筆　詞書畧之

金屏の移舟涼し寿簫の南

一生大梦

我ぞ又人や訪ん西拂

蟬の、つる秦の始皇の昔哉

白雨や雲の走る秋を寿す

眺望

白雨や仲の涯糸る鉤小舟

題八景　石山

白百合近江於毛高ぞ一目哉

両國納涼

橋涼し雪の高根ぞ吹寄る

涼しさや自ら醤油雲の孔

宿之納涼

涼しさや風まぢり吹く夜の蟬

六月廿九日或家ゟ誘涼の
書付ありて

酒蒲や扇ぎくらして風乃音

忍の岡ゟ

蓮飯ぎ蕨の取ぎ蓮　茶屋

雲乃峯

妹山ぎ付て書こゝの雲の峰

蛙ぎ世田苅と云
句あり

面乃雲　孤峰踏分こゝ田草取

梅林の始るさ枝おもふく
三伏の芳を書

汲くもくやハ空て泉あ梨夏の自

六月廿五日能登行あり
館ゟ

塚の寺　中入ぎ寺のあ川さ寺

姥塚ぎ　木魅小啼くや樹の蟬

船中の吟

蛇ぎ浪て波ゆ形て仆津佐の南

素波乃花ゝて斗保多流可南

妹書のほるるなりとゝのゝく
舟乃藤ゝ居ゝ

あ[illegible]書少ゝ逆櫓書くまや爭

醒井ゝ影孤ゝ書る保太留可那

詞書畧

蚤ゝ居如蒲團借まくゝ一夜妻

憎蒼蠅解

昼高の爰さめゝ
晩蓮ゝおゝ泣く

蚊乃寄ゝ蠅の憎さハ高まゝ

獨坐幽篁

独住昼寂さゝゝや蠅居寄

蚊遣

蚊やゝゝやほのくゝ見ゝ妹ゝ顔

空蟬乃殼の外ゝ見る蚊寄丁南

鎌倉城かゝ人ゝ

夕貞や扇ゝ谷ゝ入やゝ寄跡

瓜の香やゝ夕寄川ゝ畑ゝ飛

日盛や石も燒壁のまこゝ寒
さゝほゝゝ蛍ハみえぬ夕もゝ

憐小奴

古郷乃山ゝ似まなゝ雲去峰
海面や月ハ新まゝゝ乃峯
水乃香や藻のゝゝまい寒魚の波

六月晦日佃少家

芦孤葉ゝ風そよゝ新ゝ夕後

穐之部

鶏ゝ刻ゝ鐘ゝ告ゝ今朝乃穐

閑居

秋乃風硯蓑壁ゝ動ゝ

青樓

あゝ多ゝ新ゝ近ゝ来ゝ虫の聲
能宣ハ衛士と詠ゝ燈籠哉

悼古遊女玉菊

爰小盆有一蛇籠小蓋ハ花ちる

槿花

槿花も松も今ハ伊乃知可南

蓊乃蔭さこの利や七歩かと

朝貞孔浅黄小咲こゑ別きこの有

七夕

七夕や子の書妹この子孔ハと乗

笹竹も高よゝ子星乃逢夜哉

星合や蜘も頻乗の軒乃糸

賤乃女孔星子借夜を祈哉

蓑借人降七夕乃乃雨者

旅人子星の宿借せ一夜妻

生身竈の日毎孔祝しこゑ

酒醉乃老菜子あ梨生身竈

營精霊會

燈籠子虫か死孔せて霊まつ利

無常會や笑を出この一竈祭

踊

青蘭や自然寸法足を詰ひ
稲妻や照りおそるる閻乃顔

角力

之十まる前髪をくやすまひ取

虫 獨坐

書了倦る人待虫乃夕可南
夜も形しの友や帰るく虫の声

嵐雪老人の句に採るる

動のする了寐しまるの秋霧乃玉

女郎花さまこの兼のかつ末折
錆以や城了痩まる花乃脛

秋聲賦

草乃戸了大し高低や秋乃聲

茅屋に分る

夕都乃小家かくむくぬく屋外

案山子

身乃稲ハ高し山子し友の寤寐哉
木曽塚了矢を掛る案山子の前

身は捨る藪見附まゝ古案山子

悼令堂

桐乃葉は渡の鶉鶉乃言と少し
晋子のむかし一茶乃事も又

此秋は鶉鶉なくや長崎屋

新蕎麥や信濃ゝ下女ゝ伯母も有

前書畧

若煙草まゝ競や信濃京添

題四天王盃

金時ゝ樽乃口然く新酒ゝ南

月

蚊了あるゝ然夜自ゝあるゝ板ゝ鶉ゝゝ

樓上之吟

鳩飛ゝや二日の月は古城

武藏野や屋根ゝゝ出て江都の月

庭乃月芭蕉ゝ閣ハ涉ゝゝ

名月や潮乃毒ゝ入へゝ咲

新月や凍の下乃　籠　鯉

庵寄了病引ゝあゝゝの月

明日や常てかたらん　夕鳥
名てやゝ高きゝ鳥明方撞
名月や　鷺の魚ぬむ水の色

十六宿

十六夜ハ求の小社客城亭主哉

十六夜の月是ハ一品送ると云

十六夜や　墓ハ秘ると云ぬ　おもく

或人の別荘ニ

宮城野の一もとすゝの　根越萩

砧

職良男羅　擣ニ高ハ紀京師碪の南

泥坊も思案ニ高居ル事ニ高

雁

葉津鳳を船以て問へ義四川

て代や飛て見見ル所ハ厂の腹

夜あゝ厂や城小吹薄寒鳳寒寒

厂の音や見果ぬ夏ハ警

肯樓

菌

花守乃嫁の姑や木のもと

安永乙未秋八月巳刻二十五廻の追孝ぬ営而旧懐ぬ述る事然し

藤や昔　二十三夜去る　乃月

古東唐今青白兄の楚了
さしあるる面影了

駒引乃廿三夜を古郷可那

色鳥

うら枯了青柔とあ友目白
著ぬ聖了れかつこの琴や玉古の春

對盲人

夜了語ぬと爰ぬ平家哉

豆虫や鳩吹仕事ぬ男ぞ

菊

糸菜了鞠と成ハの砌の南
八千代経ん菊や白髪のかゝ事婦

詞書畧

淵明ハたゞ酒かくせ菜乃酒

繪事後素

白露て　夜ハ楽しき　菊分

或人の別荘にて詠ム

芭蕉や　亭主一盃　あ　男

御亭主の　晩に　ま　や　菓の　毒

詞書畧

八百歳　菓や　盗　ム　あ　や　うちん

菓の比日　星　ム

ませ菊や　世て　ま　寺　忠福

閑迦　栅に　移　や　寺乃菊　噌

神田菴新宅

家菓に　香を　あ　き名札分

男女のあ　交　ま

生醉に　鬼乃引　る　紅葉　の南

晋ハ真　の　飛

紅葉見　古　に　や　毒　の　表

き南　ま　て　菓の寺に　木魚　の邪

見ニ　ま　み　山里　一　暮乃鹿

鹿

長寿院妻乞鹿や春日山

武州多摩郡
亂山の辺にて
寿久新小三

野鼠毛犬乃嗅出せうきこの刈
宿鮎や命長良の人ゑ耻

衣このゝめ寿

梟や獨まく夜のまるく寿

九月十三日佃住吉ゆゑ

栗賣ゆゑ升にて買ふ江戸乃月

人ゆゑ老この頃中や夜の月
稲乃香の壁の達ゝ家友ゆゑ
乃冷や悟悔にて乃新まく寿

郭巨ゆゑ巨ゆゑ孝ゆゑ

孝行乃庖丁取ゑや柚味噌釜
立こゑ行鳴やいく新稲の香
切秋ゑ土つくまにまにまの雪の蓑
苅あとや麦蒔まく新小田新稲
峯ゑ立く時雨の雲や九月道

冬之部

達广ゆきもまつこそハ似まう冬篭

自悔

ゆしみり美く似合る亭子斎

祢きあれち湯哉

あのゆまやゆしの吾をきくしま

神乃旅今朝哉まちまれしく精かれ

夢屋まく竹傘かまり初志く祐

長幼之序

老まはりし妹を飛のまてあ十夜哉

生涯の欲ハ雲霧くらき
志まく公恩の業ハ鍬鋤の
糸よりもむりのし

元孫云ハ男人ふ来り冬寿元利

ましつらま峯の松この南冬の自

憐老人

昔見し夢哉火うち孫帯子哉

題志す

燈や一多枝の染こむ薄もみぢ

閑居の僧了代まこと

あるほどハほ世ハまくゝ蒲團哉

頭巾

浦島こ以巾了こうく寿白髮哉

風

木こゝ一ハ葉迄一こゑ山星ハ吹

紅閨

木枯や鶯鶯の衾ハ寒ク夜さく

巨燵 きこゝ多ハ妹脊の山ハ

芳野川妹脊の巾了巨燵こ面

寒

海ハ出こ面物喰蛮の寒さこの那

芭蕉忌 嵐ハ菴みく

くせハ忌や互了囲寺塁の影

神田菴みこ面

茶乃絶主ハ蕉十郎や芭蕉涛

炉邊独坐

焚香又手向ヒ那ヒ枯尾花

十一月顔見世

朝神楽

あさ〻ま求こゝろや國こゝろ便

岩戸出也影見世代〻神の泓決

題夜與引

狩人居犬找身小寄る柔夜こゝ南

家燭〻高嵐枯〻影夜與

雪残逍遥

入相找兼と緑那宜樹〻寄由求

病中の吟

誰やゝと増居ゆゝ高言の椽

有客無酒有酒無肴

客〻と〻厨捜求や夜乃雪

大雪や海一〻寄天の河

門の言寄光ゝ人乃那〻もこ南

炭焼乃女房兼我見こゝゝや思南

戯題

二挺艫ゝ舟ゝ見ゝ夜まの星ゝ

寒念佛

一休の哥誠ゝ乞食是ゝ念佛
あゝの哥ゝの意ゝ念佛ゝ利ゝゝ佛
店賃ゝ扣ゝ出ゝゝゝ念佛

餞別 上京せんゝ

海ゝゝゝ都のゝゝゝ鉢ゝゝ
呼ゝ入ゝゝ俗名ゝゝたゝゝゝ
あゝ都ゝゝゝ身ゝゝゝ妻ゝ鉢扣

歳暮

降ゝゝゝゝゝゝゝ年ゝ松ゝ雪
吾ゝめのゝゝゝゝゝ年ゝゝゝ
蓑虫ゝ出ゝ岡見ゝゝ年ゝ

雪の降ゝゝ

雪の中ゝゝ妻ゝゝゝゝ餅杭
福天ゝいのゝゝゝゝ年の暮

追加　梅やしまみく

下部等て吾酌うゝ暮夜の梅

三月十五日木母寺みゝゐ

青柳乃春て乾くの汨可南

此日まみ川舟中みゝゐ

ちゝ原て鶯迷ふ呼子鳥

安永三午歳三月四谷桃蘭小遊行ゝゐ

詞書畧

牛乃脊ゝ酒の莚や桃ゝ蕊

亀戸

春て松ふ夏の夕や蛍ゝ

家て中ん乳ゝ法師

おりきむのゝはるゝ

ゐみてゝは世て松

人てゝあるゝ

法躰ハ蚊衣や蕊ゝ中

目出ゝ人の中ゝて世ハ

心ゝの蛍ゝ

夏の松ゝ

ゝて松ゝ

夜ゐ世ゝ

て松ゝ

ゝ盗賊のまと

ゝ書ゝて

蚊と蛍乃吉次ゝゐ情哉

義の時許由ハ見えぬ瓠の南
蚊帳きれ高ぬ夜をかるる心地
稲すゝや歳京湖きゝ百日花

両國納涼

水きゝ月きゝ

橋きゝみ此河上や天ゝ川

悼池鵜

穂風ゝ泪ハ深ぬ裏きゝ

面かゝまゝすゝきゝ

杉きゝ少ゝ

やきゝ山那蚯蚓鳴ぬ出ゝ今朝乃秋

虫ゝ音ゝ今朝周ゝめぬ稲の風

追悼　在澄

あゝきゝ形ゝ此人哉
門ゝ入ゝも夫の形ゝ

きゝほゝゝ主ゝ一ゝ哉ゝ行ゝき

面ゝ一小町ゝ身の朽ゝ哉

踊ゝ夜城毎の許ゝ妹ゝの南

かゝゝ又ゝ都ハ男ゝてゝれ

鄙ゝも宮古ふ近き所なれ
吾人ゝ爲のすゝ天ゝ河
星合や吾ハ七歩ゝ七句ゝ

聖靈會

鄙ゝやこと隔ハやゝ事淋しき
蓮切ゝ多極楽ゝ盆ゝ自

此文自廿九日神田葬相州
於行馬の路ゝ

女郎ゝ不川越ゝ神奈川や
朝ゝの夫一時の爲人哉

十二夜の月ハいゝあゝん
ゝゝの十五夜の月詠得ゝ

自と吾我と自ゝ夜をすゝ
おゝふ事ゝ空ふ行ゝふの自
名自や几帳隔ゝ君と吾
つゝ星ゝ別ゝゝゝ糸ゝ
明自や天ゝ降ゝ妹ゝ良
自ゝ育採拾ゝ玉ゝ那
献立ゝ厚ゝ入ゝゝふの自

名月や酒飲止まぬ人ばかり

酒飲まぬ人ばかりなる慚愧

木兎の土器ぬるし白やまぶの花

桃青古翁の句を借る

明月ハ君ゆゑ雲ぬぎすてゝ

深川八幡社頭にて

夜来新神やまぶの花

月今宵やまぶの花の笠ぬぎ

此才の松の陰乃月ハ南

月の松桜の上ハ雲ぬ事

此吟月の句を拙くなぞらへ

なぞらへ小まる事

新月や大の字探る山吉久

このこゝハの義人かゝせ国乃月

荒小田や伏猪の寝ぬの小薄

是我喰を葬のまゝ吉蕎掛

うゝ枯や海ゝあの新板の月

略の事ハ夕辺まゝあゝ初時乃

深川みゝ

銅を赤熱火のごとき小夜影
からくしてゐ待つまさ敷雪の
うまくくと雀踊りく

やまと重よりく郵竜田を高く誉ん

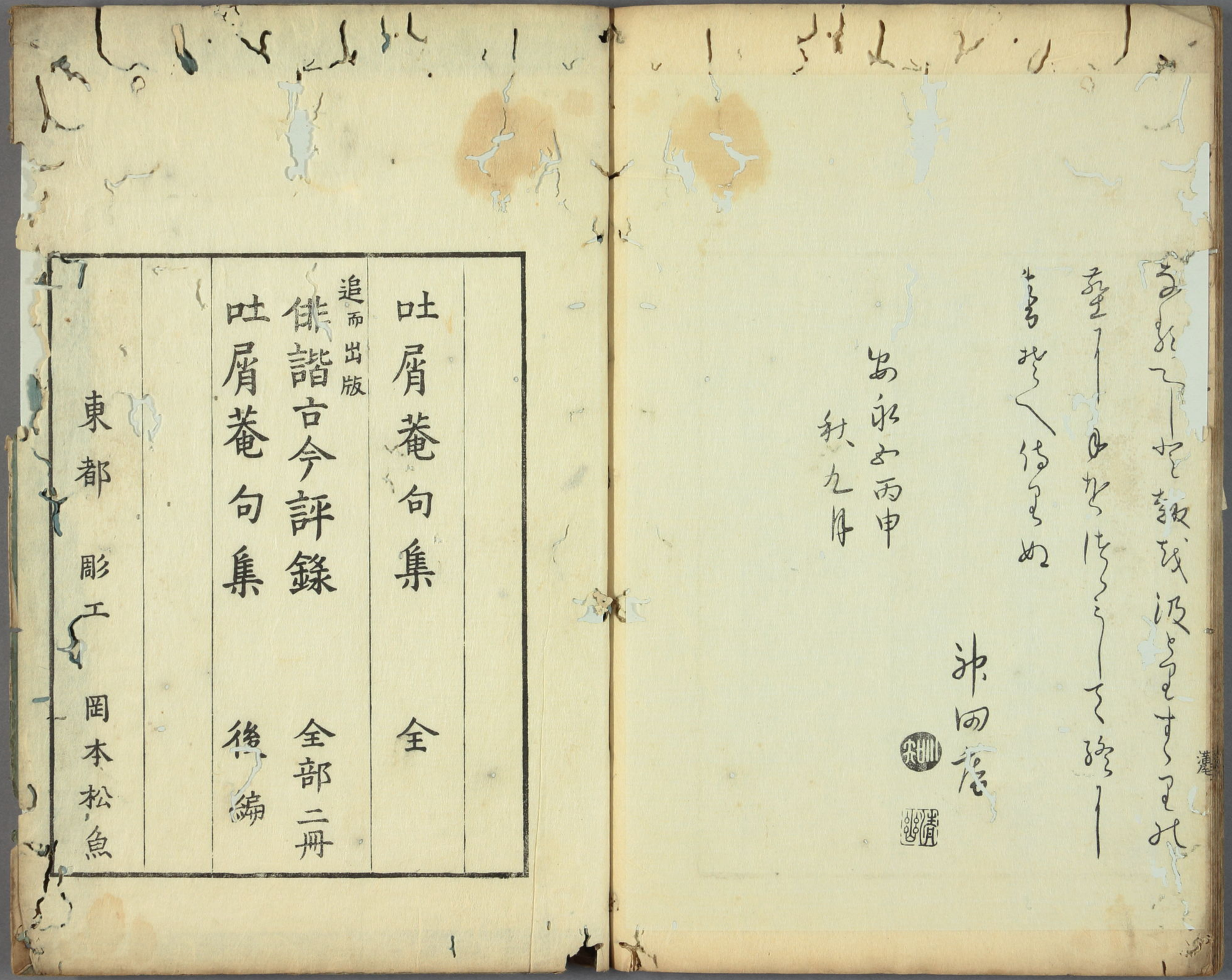
船中之吟　固ふしく又角おを

格柳て雪の木口玩又素多

あ敷道ふ者の疲気持るる
そ冬てつくもく朝香
互蛙よ蛙くくくくくくも
君も拉の除の雨のなうく雨
ま無くの蛙てく戎　巨蛙この南

蛙

世世屠唐句集ゆきくも郷浩
日ゝに色ゝ三ふ日を佳くたまくる
句くを図るて化三百ふ十ふ余
義ふ風重ふ調日重さかぬ
名所まを世よみく捧てリる
ふを味を記稿を臨ふと
重ゝ信ゝ稿ふきみ及右



吐屑菴句集　全

追而出版

俳諧古今評錄　全部二冊

吐屑菴句集　後編

東都　彫工　岡本松魚